地方自治ここにあり　首長インタビュー

城と文化の魅力を磨き観光の街に
木質バイオマス発電所で熊野の森復活を

新宮市長　田岡　実千年さん

田岡実千年　新宮市長

地方自治の最前線で活躍するトップに聞く首長インタビュー。町村長を一巡しましたので、今回から市長との対談を順次紹介していきます。

第一回は、新宮市の田岡実千年市長です。聞き手は当研究所の鈴木裕範常務理事です。

人口減抑制対策は引き続き4つの柱

鈴木：連続当選が難しい新宮市の市長に3期連続で選ばれ、3期目も半ばを迎えています。市民の評価をどう受け止めておられますか。

市長：就任して1年半後に紀伊半島大水害がありました、その後もいろんなことがありましたが、ひとつひとつの課題から逃げずに丁寧に対応してきたつもりです。振り返ってみると、土地開発公社の解散は、40数億円の借金が市の借金に丸々なってしまうんですけど、決断してやらせていただきました。それも、市民のみなさんが分かってくれた結果と思います。

「市民の誰もが元気で心豊かに暮らせるまちを実現していく」というスローガンにこめた、弱い立場、困っている人が心豊かに暮らせるまちにしていきたいという思いも通じたのかなと思っております。

鈴木：新宮市は、基幹産業の林業、製材をはじめ地域経済の衰退が続き、人口減少に歯止めがかかっていません。奥熊野地域における新宮市のプレゼンスは低下しています。今後のまちづくりをどう進めていくのか、2025年問題、2040年問題が迫っています。

市長：地方創生の、まち・ひと・しごと創生総合戦略は、5年の最終年度になりますが、それを検証し反省もして、令和2年度から、第2期の創生総合戦略をつくっていくことにしたいと思っております。第2期も人口減を少しでも抑制するための取り組みとして、地方に仕事をつくり、安心して働けるように良質の仕事場を増やしていくというのがまず1つです。

2つ目が、定住人口が減る中、交流人口を増やして、まちの活気を維持していこうということで、観光への取り組みです。

3つ目が、若い世代の結婚、出産、子育ての希望をかなえていこうと。今、新宮市の人口減少は、自然減の方が多いんです。400人以上が亡くなって、生まれてくる子どもが200人にもいかない。

4つ目が、各地で台風や水害が多発していますが、安心安全な暮らしを守るまちづくりというのをしっかりとやっていくことを目標に掲げたい。

わかやま住民と自治
発行／和歌山県地域・自治体問題研究所
和歌山市太田2丁目14-9　太田ビル203号
TEL･FAX 073-488-3127
jichiken@crux.ocn.ne.jp　2020年1･2月号
2019年12月25日発行　第315号　（月300円）

目　次

地方自治ここにあり　首長インタビュー
城と文化の魅力を磨き観光の街に　木質バイオマス発電所で熊野の森復活を
新宮市長　田岡実千年さん …… 1
第９回わかやま住民要求研究集会記念講演②
「全世代型社会保障」の本質と課題―人権としての社会保障から考える―
立教大学教授　芝田　英昭 …… 5
「我が事まるごと」「全世代対応型社会保障」をどうみるか②
和歌山大学経済学部准教授　金川めぐみ …… 9
「沖縄の旅」　自治体問題研究所　西岡　敏 …… 11
年頭挨拶　自治体問題研究所理事長　大泉　英次 …… 12

木質バイオマス発電所で山が動く
雇用の創出に期待

鈴木：総合戦略では、「暮らしやすさの満足度が高い」まちを掲げています。平成24年に行った、市民アンケートで、55パーセントを超える人たちが、暮らしやすいと答えています。海山川の自然と都市的要素、地域性がありますが、いずれにしても人が住む魅力ある都市をどのように実現していくのか、お聞きしたい。

木質バイオマス発電所の起工式（新宮市提供）

市長：産業面では、良質な雇用の機会の復活が課題になるなか、いま新宮港の工業用地に大規模な木質バイオマス発電所を建設する事業が進んでおります。これは工場での雇用が40人。それに木質バイオマス発電の原料は間伐材で、間伐材をある程度の値段で引き受けてくれると伺っており、放置していた森林が必ず動き出すことになると大変期待しています。低迷する木材業の復活につながっていくと思うんです。

鈴木：産業おこしの大きな柱であると。

市長：そうです。

鈴木：持続的なバイオマス発電のためには間伐材の量や搬出するためのインフラ整備の立ち遅れの問題が指摘されています。目論見通り、いくのかどうか。

市長：足りない分は九州から船で持ってくるようですが、優先的には地元の山林からということです。今回、国の方で、森林環境譲与税が創設されまして、森林の面積とか幾つかの要件によって配分される特別な税金が創設されました。そういう森林に関する交付税を使い、行政としても林道の整備とか搬出をしやすいように協力していくべきかと思っております。

鈴木：熊野の山のインフラ整備を進めると。

市長：そうですね。

鈴木：山の仕事は総合産業です。

市長：そうなんです。木質バイオマスは、エフオン新宮という会社がやるんですが、直接雇用が40人、間伐の搬出や輸送とか、関連産業を含めると約１００人の雇用が発生すると言われておりますので、大変大きな産業になると思っています。

鈴木：仕事づくりですが、若い世代が起業、挑戦するような制度は、どこまで進んでいますか。

市長：今、行政と金融機関、商工会議所と連携して、起業創業希望者への支援を行っております。例えば、広告費の補助や開業に必要な借入金の融資の利子補給をしたり、家賃補助を行い起業を支援促進しており、予想以上の応募があります。

文化のまち・新宮
新宮城址をどう生かすか

市長：このまちには海、山、川の自然があり、文化のレベルが高く、歴史のあるまちであり、観光地としてもすごく魅力的な可能性を秘めています。国内外から多くの方に来ていただく可能性があると思っております。観光客が増えれば、お店が自然と増え、創業のチャンスが生まれ、雇用の創出が期待されます。

鈴木：新宮は文化度が高い都市と自他ともに認められているわけですが、もっと文化を再評価して、文化都市を目指すべきではないか、文化都市宣言をしたらどうでしょう。

市長：文化都市宣言までは具体的に考えてはないですが、本当に歴史文化のレベルが高いまちだというふうに私も思いますし、よそから来た方々も口をそろえて、そういっていただけます。新宮城では11月9日、10日に水野家の入部４００年の節目の年で、大規模なイベントを開催し、末裔のドイツ在住の水野・ベロイター・モニカさんも来られました。熊野三山の熊野速玉大社、2月6日の神倉神社でのお燈まつり、大正ロマンの旧西村邸やチャップマン邸といった建物もあり、佐藤春夫や中上健次ら大変有名な文化人が出ているまちです。

鈴木：そういうすばらしさは新宮の財産、レガシイです。これを活用しない手はありません。新宮市の文化行政はこれまでその辺が十分に活用されていないと思います。

市長：なるほど。大変貴重なご意見を頂きましたので検討したいと思います。

鈴木：ぜひ、ご検討ください。お城の話ですが、新宮城は、天守閣はないけれども、石垣が美しいお城です。城下町のまちづくりに生かすお考えはどうですか。

市長：美しい石垣は、新宮の財産だと思っております。

新宮城復元の会を民間でつくってもらっていて、今後の方向について答申をいただきました。城を復元するためには、国の史跡の指定になっていることから、設計図とか、本物の写真が必要なんですけど、今、懸賞金付けて、そういったものを募集しております。復元できなくても、今、残っている美しい石垣を大切にしながら、もっとこの新宮城跡を観光にも活用すべきだというふうに思っております。

鈴木：古い天守などの写真は見つかっていない。

市長：１７００万円、懸賞金を掛けているんですけど出てこない。

新宮城址の石垣

鈴木：発想を変えたらいかがですか。山形県の鶴岡はお城の城跡がない、しかし作家藤沢周平さんの小説「海坂藩」のモデルとして人気を集めています。鶴岡市は、城下町景観を構成する最大の魅力は、パースペクティブ、町から望める朝日連峰や月山などの山並み、そしてまちなかを流れるきれいな川、などの景観です。新宮に似ていると思いませんか。

市長：そうですね。新宮城は沖見城という別名があるように天守台からは南には太平洋が見えて、北には熊野の山並み、そして足もとには熊野川が流れ、真下には水の手の川港があり。

鈴木：かつての池田港。

市長：炭納屋跡という、軍港施設とかもあります。

鈴木：私の中では、鶴岡と新宮の景観が重なるのです。天守閣がなかったら城下町景観がないという発想は変えてもいいのではないかということで、お話しました。

市長：ありがとうございます。

鈴木：水野氏の城下町という視点からのまちの語り方は、もっと必要でしょう。

市長：これまでは、ＰＲ不足だったかなと思いますので、水野家入部４００年を期に、もっと観光にもつなげていきたいと思います。

文化複合施設建設問題　ブレてはいない

鈴木：丹鶴小学校の跡地の文化複合施設の建設ですが、江戸時代の武家屋敷跡で消失は、私個人としては残念です。

　この施設建設を巡っては、迷走や市長の決断を問題視する声を聞きました。ご意見がおありではないかと。

市長：文化複合施設は、財政上の理由とか、建設予定地から重要な遺構が見つかったということがあり、当初の３棟案から計画を変更して、１棟で建設するということになったわけです。中心市街地に文化複合施設を建設して、旧市街地に人の流れを呼び戻すという方針は一貫して変わっておりませんので、決して迷走していないし、また、決断力がないということでもありません。財政上や場所の問題で、少しは変更になりましたが、考えがブレてるつもりはございません。

鈴木：お考えは市民に十分伝わっていなかったのではないかと思います。

市長：複合施設は、新宮だけじゃなくて、周辺含めた熊野圏域の新しい顔として、熊野の自然と文化が結び付いて、みんなに愛される施設になることを狙って、周りの景観との調和も配慮してやっていきます。

鈴木：田岡市長の任期中には完成する？

市長：令和３年春の完成を目指しております。

鈴木：ところで、田岡市長はＪＣの理事長を経験されていますね。

市長：はい。

鈴木：全国の城下町のＪＣの皆さんが、地方都市の衰退が深刻化する中で、城下町再生に声をあげ、活動が続いています。このＪＣによる城下町再生ネットワークに和歌山県のＪＣは入っていませんね。

市長：そうですか。どこも入ってないんですね。

　城下町再生ネットワークというのがあるということ自体、知らなかった。で、和歌山県内のＪＣがどこも入ってないというのは、お聞きしてびっくりしました。ただ僕が卒業したのが20年ほど前なんですけど、数年後にＪＣが主催して、よみがえれ新宮城というメインイベントをやった年もありましたし、今回の４００年祭（11月９日、10日）のイベントでは、ＪＣの直前理事長も実行委員として関わっておりました。

鈴木：お城は語るけれども、城下町は語らないというのが和歌山の現状かと思います。

コンパクトシティと　デマンドタクシー

鈴木：ところで、人口減少少子高齢化が進むなか、新

宮市は市街地のコンパクトシティ化を打ち出しています。

市長：国交省の土地再構築戦略事業の交付金も頂いて、コンパクトシティづくりを着々と進めています。駅から1キロ圏内に、文化複合施設や保育所を新設したり、防災拠点の市庁舎も同じ場所に建て替えたりということで、中心市街地もかつてのにぎわいを取り戻せたらなというふうに思っております。

熊野川（町）は、地域の方々の一番の悩みがふだんの生活の交通手段なんです。

デマンドタクシーの住民説明会（新宮市提供）

この間、熊野川町で説明会をさせていただいたんですが、公共交通の再編に具体的に取り組んでおりまして、デマンドタクシー（事前予約制の乗り合いタクシー）の導入を来年度にはやりたいと思っています。

鈴木：どのような形になりそうですか。

市長：熊野交通が走っている路線の幾つかを廃止して、タクシー会社にデマンドタクシーを走らせてもらうと。住民さんにとったらバスより小回りが利くというか、予約して家の近くまで来てもらえるので、いろんな意味で大変便利になるというふうには思っています。

利用される町民のご意見もしっかり聞かせていただきながら、使い勝手の良いシステムにしていきたい。より買物がしやすくなると思いますし、また医療機関も通いやすくなるように、しっかりとやっていきたいと思います。

鈴木：公共交通のバスは、残るのですか。

市長：一部廃止です。幹線の168号線を通っている路線バスは残りますけど、枝線はこのデマンドタクシーに変えていくということです。

鈴木：地域住民ファーストの運用が重要ですね。

もうひとつ、防災、災害対策です。

市長：防災は、最重要課題です。年々巨大化する台風への備えと近い将来必ず発生する南海トラフの巨大地震に、ハード・ソフト両面で備えていく必要があります。地震対策として、住宅の耐震化を進めていくための補助制度、また高齢者の世帯へ防災対策課の職員が家具の転倒防止の器具を無料で取り付けに行っているんです。そのときに津波から逃げる話をさせていただく取り組みもやっています。それと、2年前の10月22日に集中的な豪雨で、新宮旧市内600軒が床上浸水したんですね。今後、まちの中を流れる市田川にポンプ設置もやっていくわけですが、とにかく、ハード・ソフト両面でしっかりと取り組んでいきたい。

最近、結構、避難所へ避難してくれる方が増えているんですよ。早めの避難の呼びかけに加え、全体に避難勧告を出すのではなくて、本当に危険と思われる場所へ限定的に出したりしているので、避難を真剣に住民がやってくれるわけなんですね。ところが避難所が劣悪な状況では困るので、板間しかないとこに畳を敷いくとか、避難所の充実にも、今、取り組んでいるところです。

鈴木：地道ですが、どれも重要ですね。

3期目も残り2年ですが、子どもたち、若い世代にどのようなレガシーを残しますか。

職員が変われば まちは変わる

市長：ビッグプロジェクトの文化複合施設の完成・活用をしっかりとやっていくというのがまず一つ。防災対策は、ハード・ソフト両面でやるべきことをしっかりと実行していく。

紀伊半島一周の高速道路が3月に全線事業化なりましたが、この高規格の高速道路は防災対策の大きなインフラなので、一日も早い完成をしっかりと要望していきたいと思います。

それと一期目から言っているんですけど、市役所改革（職員の意識改革）をしっかりやりたいんです。新宮市のため、市民のために、職員一人一人全員が前向きにやる気になれば、まちは変わると思っておりまして、今、毎月、職員さんとの昼食会とか、開催し、私の思いを伝えております。

鈴木：そういえば、新宮市は、和歌山大学の南紀熊野サテライトが開講している授業を受講する職員の授業料を全額補助していますね。スキルアップへ、意欲を垣間見る気がします。

不透明な時代のかじ取ですが、引き続きリーダーシップを発揮し市一丸となっての前進を期待しております。今日は本当にありがとうございました。